



20

茶

第二草中

田代

前の場から約一ヶ月後の夜半

駿河湾に流るる小高い丘の上には新築し

たばかりのや、文化式を加味した二階建の家

のがある。静かな永土堤の眠りを联想させたやう

の色と形の家である。階下は低い石段と上つえ、

さよつと鉄の門のやうな感じの二階がある。二

階は二つの窓がある。見えた。窓が大部

屋のやうに流れ、月の光りの

流れ、

下手は一級低くおつて海へ下る道が

あり、伊豆半島の土肥あじりの山が月の光り

に照らされて海へたて、煙つてゐる。下手に

と異つ赤に熟した柿の樹が一本。芒おと枯れ枯

れの光の音。浪の音。

六左卫門、ついでしかつ、上手より小急ぎ

に豆場。

六左卫門 まつたく心配おことにありよし

か

かつら お父さんはどうおすうたのたう

MARUZEN I

